

子の葬儀での挨拶

(初めの挨拶入る)

また、ただいまはお心のこもった弔辞をいただき、本人もさぞかし感謝していることと思います。

〇〇は〇〇才、不慮の事故とはいえ、親としては悔しいとしか申せません。今すぐしたいこともあったろう、将来の夢もあったろう、それが交通戦争の犠牲で一瞬にして砕かれたのです…無念です。

日頃自動車を運転する私に交通事故の注意を促していたのは息子のほうでした。

まさかそれが〇〇の身に起きようとは、夢にも思いませんでした。

ただ、本日このように大勢のお友達がおいでくださって〇〇の死を悼んでくれましたことは、とりもなおさず〇〇の〇〇年間で、それなりに充実していたのではないかと思えます。

それを思うと、私どもの心もやわらぎます。

(締めの挨拶入る)

* 子供の友人へも伝わるように、平易な挨拶をします。

死因などはどうしても感情的に語りがちです。

できるだけ平静に挨拶をします。